

プロフッ思考を持って やるじやないか

高田 繁氏、野球教室・講演会



「市民のスポーツ振興のために」とカルチャーセンターが毎年、有名なスポーツ選手を招いて行っているスポーツフェスティバル。今年は、昭和四十年代に巨人軍のV9戦士として活躍した高田繁さん(現野球解説者)を迎えての野球教室と講演会が、三月十九日カルチャーセンターで行われました。

野球教室には、市内の小・中学生約百七十人が参加。守備や打撃について教わりました。背番号8の巨人軍のユニホームを着た高田さん。「ひざを柔らかく使って」、「常に動きを止めないように」などと約二時間にわたって指導。元一流プロが語る

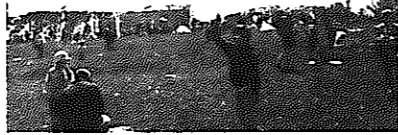


基本の大切さに、子供たちはもちろん、引率の大人たちの中にもうなずく姿が見られました。約四百五十人が訪れた講演会で高田さんは「逆境に立ってもあきらめないことが大切」と力説。選手時代、外野手からいきなり内野手に抜かされた苦しい経験も上げ、「常にプロ思考を持っていれば道は開ける」と語りました。そのほか球界の裏話を披露したり、今シーズンの優勝戦線を予想したり。楽しい講演に観客はすつかり引き込まれていました。

ワシントン桜祭り ジャパンフェスティバル

白根の大風が三月二十六日、米国の首都ワシントンに舞いました。ワシントン桜祭りの「95ジャパンフェスティバル」に招かれたものです。白根市から大

桜の大風、ワシントンの空に



風と歴史の館の田村和雄名誉館長ら四人が参加しました。

桜祭りに合わせ、桜の大風などがケネディセンターに展示され、スミソニアン博物館近くの広場で揚げられました。またホワイトハウスの近くで開かれたロケットクラブの会合の場でも飾られ、米国内外の著名人の歓迎を受けるなど、大風と白根市を強く印象づけました。三月末はワシントンの桜の見ごろ。大風と法被姿は、白根市から届いた桜前線となりました。

素晴らしい

白根の大風に感激

在新潟ロシア総領事 白根市表敬訪問

四月十三日、在新潟ロシア総領事のユーリー・D・クズネツォフ氏が夫人を伴って白根市を表敬訪問しました。

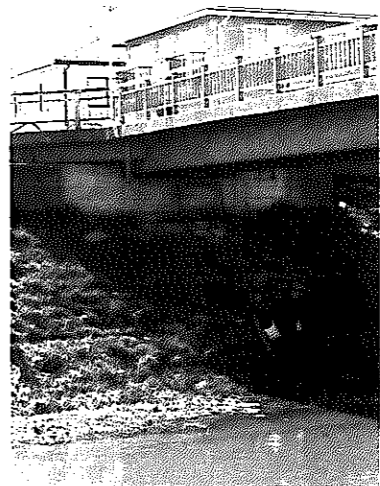
クズネツォフ氏は、昨年新潟市に設置された新潟ロシア総領事館の初代総領事。「民間レベルでの国際交流はできないか」と日ロ民間交流協会(桜井利春会長)の協力で、各地を訪れる民間国際交流事業を始めました。今回の白根市訪問がその第一回目。クズネツォフ氏は「ぜひ一度ロシアにおいでください」と竹内市長にロシア各地をパンフレットで紹介しました。



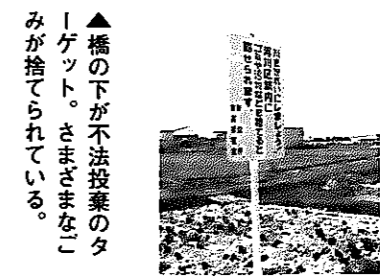
四月十三日、在新潟ロシア総領事のユーリー・D・クズネツォフ氏が夫人を伴って白根市を表敬訪問しました。

不法投棄に泣く大通川

ごみの不法投棄は、絶対やめよう、やめさせよう



ごみの不法投棄に泣かされる河川。白根市の真ん中を流れる大通川も例外ではありません。空き缶や段ボール箱、ひどいものでは自転車やバイクまでも捨てられています。「わざわざ車で来て、橋の上から捨てるんです」と近くの住民も困っています。たまりかねた渡辺正男さん(大通南)。県土木事務所へ連絡



して「不法投棄をやめよう」の看板を二つ設置してもらいました。「少しでもごみを減らしたくて。大通川の自然は素晴らしい。不法投棄はやめてほしい」と話します。ごみ問題はマナーの問題。不法投棄は絶対にやめましょう。不法投棄を見かけたら、注意する勇氣を持ちたいものです。

▲橋の下が不法投棄のタレゲツト。さまざまのごみが捨てられています。

白根一中 吹奏楽部

大風の眼下、スプリングコンサート

三月二十六日の夜、しろね大風と歴史の館で白根第一中学校吹奏楽部がアンサンブルコンサートを開催。約百人が来場し、部員たちの奏でる調べに酔いしました。この日は、クラリネット、フルート、ホルンなど八つのパートごとの演奏。三、六人が順番にステージに上って、一、二曲ずつを披露しました。歴史の館での開催を思いついたのはある部員の母親。「大ホールで演奏したら、面白いんじゃないかしら」と考え、館へ



問い合わせたところ快諾の返事。大風の見える特設ステージで、一風変わったコンサートが実現しました。来場した女性は「館は初めて入りました。コンサートができるとは。なかなか素晴らしい」と驚いていました。「一般市民を対象としたコンサートは初めてなんです。部員たちは緊張したみたい」と顧問の星野裕子先生。「いい経験になったでしょう。今後の演奏に生かされると思いますよ」と笑顔で話していました。

わくわく大通っ子クラブ 自由学習の会

地域ぐるみで子育てを

春休み期間中の四日間、大通地区で地域の子供たちを対象に「こども自由学習の会」が開かれました。約八十人の子供たちが参加しました。この会は、地域の子供たちを地域ぐるみで育てようという「わくわく大通っ子クラブ」(織田絹子代表)が主催したものです。三月下旬から四月上旬にかけての四日間、同地域生活センターで、自主学習やごみ拾いなどの奉仕活動、メンコ作り



などの製作活動、ゲーム、給食などが午前九時から午後一時まで時間割に従って行われました。最終日の四日は、子供たちが八つの班に分かれて地域内をあちこち回り、白地図に友達の家や知っている店などを書き込んでいく「わくわく探検隊」の探検地図作り。年長の子供をリーダーに、ごみ拾いもしながらの地図作りです。子供たちは、スーパリーの買い物袋いっぱいにごみを拾いながら、途中で白地図を広げては書き込んでいました。四日間、交代制で子供たちが米とぎをしておにぎりを作ってきた給食も、最終日は豚汁つきの豪華版。一生懸命おにぎりを握っていました。「地域の子供たちと親が顔見知りになれるように」と昨年からは始められた自由学習会も、今回で三回目。「子供同士が学校のクラスを超えた仲間づくりができれば」と代表の織田さんは話していました。